

放送人の会

No・44
2010・1.22

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階
Tel&fax 03-3221-0019 E-mail info@hosojin.com
代表幹事 今野勉 編集担当 伊藤雅浩、佐藤真美子、鈴木典之、松尾羊一

いかにして後世に伝えていくか

代表幹事 今野勉

当会幹事の久野浩平さんが元旦に亡くなって、旬日を経ずして本稿の締切日を迎えることになったので、久野さんに触れずに巻頭文を書く訳にはいかないと思ひ、そうすることにした。

とはいえ、私が久野さんと知るようになったのは、お互い放送人の会の会員になってからのことであって、追悼文のようなものは別に適任者がおられるであろうから、私は久野さんが担当幹事であった「放送人の証言」の現状と将来の展望について記すことで手向けの言葉に代えさせて頂く。

「放送人の証言」は、放送の草創期に番組制作や技術開発にたずさわった人々にインタビューしそれを録画するという事業として、1999年に始まり、現在すでに150名前後の人々の貴重な証言を収録している。

その概略は、久野さんが会報で報告してきたので会員の皆さんは周知のことと思う。

証言収集のメドとしては、人数にして200名程度、



絵・鶴橋康夫

対象時期としては1970年頃までをとりあえず目指している。

問題は、これらの証言を、将来的にどう活用していくか、ということである。どのように活用するにしろ、映像のままでは、閲覧するにしても編集するにしても引用するにしても、不便で効率が悪い、とにかくまず活字化することが前提になる、というのが、衆目の認めるところである。

活字化とは、簡単に言えば、録画テープからいわゆるテープ起こしをするということであり、手仕事であり、つまりはそのための報酬を必要とするということである。試算によると200人分数百時間のテープ起こしに数百万円を要するといふ。

「放送人の証言」の収録作業は、放送文化基金からの助成金などで実費の部分は支えられているが、人件費などは会員のボランティア活動に負っていて、そのうえの活字化の作業までを会員に負わせるのは酷というものである。

その打開策として、大山勝美さん（特別顧問）や桜井均さん（幹事）、そして私も加わって東京大学情報学環に相談して放送アーカイブの構想研究開発の一環に「放送人の証言」を利用して頂けないか、話を始めている。

どう展開していくか未知だが、とにかく動いてみるしかない。ことし最初の話

し合いが、久野さんの告別式（1月4日）の直後（6日）であったのも何かの因縁かもしれない。

「放送人の証言」を俟つまでもなく文化資産としての放送をどう後世に伝えていくか、という問題は、私たち放送人に課せられた、これからの使命である。

テレビ草創期にほとんどの番組が消去されてしまったことで蒙った傷手は二度と繰り返したくない。

その思いを年頭に新たにし、「放送人の証言」の今後の展望がことし最初の仕事になったことを久野さんに報告することで、私の新年の挨拶としたい。

放送人の会イベント

会場はいずれも横浜情文センター

3丁目のドキュメンタリー

日時・1月30日（土）午後1時半〜
ゲスト・森まゆみ、水島久光
視聴映像・映画「家族」（山田洋次）、ドキュメンタリー「日本リゾート列島」

人気番組メモリー

「世界ウルルン滞在記」
日時・2月20日（土）午後1時半〜
ゲスト・徳光和夫、白井博、山本太郎
司会・大山勝美

放送人の世界

「テレビの青春」と今野勉
日時・3月20日（土）27日（土）
4月3日（土）いずれも1時半〜
ゲスト・今野勉

2010新春挨拶・所感

軽井沢朗読館

青木(金杉)裕子

早いもので今年の6月で定年を迎えます。思えば皆様に助けられ励まされて37年でした。皆様と知り合えたことが私の一番の財産です。ほんとうにありがとうございます。これからも大好きな朗読をライフワークに精進を重ねていく所存です。縁あって軽井沢千ヶ滝の浅間山に一番近い森の中に「軽井沢朗読館」を建てました。朗読用のホールと録音スタジオがあり、野外劇場にも使えます。定年後、週末は軽井沢で朗読活動、週の半分は東京暮らしと、体力の続く限り続けていこうと思っています。4月17日、18日には内覧会、5月の1日から5日まで柿落としの週で皆様をお迎えできたらと企画を立てています。また改めて、ご案内を送らせて頂きます。朗読のすばらしさ楽しさを広めたい、皆様と共有したいと私費を投じて建てたものですから、ぜひご利用いただけたらと願っています。

石井 清司

昨年末、ヤマハミュージックメディアから「ジャーナリスト石井清司の作曲家評伝シリーズ」3冊を出版しました。

①「ドラマティック・モーツァルト」天才の人脈術

②「ドラマティック・ベートーベン」自己プロデュースの達人

己プロデュースの達人

③「ドラマティック・シヨパン」人生を決めた選択

以上3冊です。よろしくお願ひします。

市岡 康子

昨年は愛犬クラの病氣介護に集中した年でした。彼女は9月に逝ってしまい、ペットロスにならないよう忙しくしています。

中断していた阪大研究員の映像制作指導も再開して12月に完成間近かまで漕ぎつけました。

新しい年が、皆さまにもわたしにも幸多い年になるよう祈念しています。

それはラジオからはじまった

大山 勝美

元旦、初日の出のほんのすこし前、久野浩平さんはあの世へ旅立った。

昨年のおきには、九大仏文の同窓生たちと京都に遊び、そのあと夫人とヨーロッパ旅行をし、帰国後は御息たちと酒を酌み交わし、自作のテレビドラマについて楽しく話していたと聞き、こちらの

気持ちもすこしやわらわらした。直接的には誤飲で肺に水が入り、肺気腫の持病があったため嚙下がままならなくなった結果だそう。

民放ラジオ開局には、主要新聞各社が競い合っていたが、突出して熱心だった

は毎日新聞であった。久野さんはRKB

毎日、若い詩人の会のメンバーたち——寺山修司、阿部公房、谷川俊太郎、川崎洋らと組んで、次々と前衛的なラジオドラマを発表し、その令名は輝いていた。

森繁久弥さんの幅ひろい芸の原点は旧満州の8年間のアナウンサー時代にある

ことを、引揚げ後50年目に旧長春を訪ねる12日間の旅の番組ディレクターとして

御一緒したとき実感したのだった。

森繁さんは「アナウンサーにとどまらず八面六臂の活躍をする。「国境を行く」

などボルテージ番組を企画制作し、放送劇団をたちあげ脚本を書き演出をする。満映映画のニュースのナレーターを

受け持ち、同好の士と劇団をつくり公演を重ねていた。

話術はうまく物真似はプロ級。話題は豊富なので、旧満州への日本からのVIPの客たちの宴席には必ず声がかかり、

「長春に森繁あり」と評判のアナウンサーであったのだ。

その森繁さんが晩年よく指摘していたのは、セリフの明瞭さと切れの曖昧さで、

若手はもつとラジオで勉強した方がいいとも言っていた。

久野さんのように、ラジオで一家をなしテレビでも成功した人は少なくない。

吉田直哉、佐々木昭一郎、遠藤利男、萩元晴彦。これらの人たちは、テレビに最初から直接参加した人種とすこし違うような気がする。訴求力は聴覚の数百倍と

いわれる視覚を軸とした映像を手にするとき、抵抗やたじろぎがあったに違いない。それをどのように解消していったのか。左脳系から右脳系への発想の転換はどのように行われたのだろうか。

「季刊文科」(鳥影社) 最新号に、元文芸春秋の編集者高橋一臣が、昨年亡くなった作家庄野潤三への追悼文を寄せ、「人と作品」を回顧している。庄野の代表作

は「静物」なのだろうが、淡々とした日常の身辺雑記という印象がよい。庄野

と同じラジオ局出身の阪田寛夫が高橋に庄野の創作の秘密を打ちあけた話が披露

されている。庄野は凡庸なエピソードの

積み重ねと見せかけて、巧妙な趣向にみ

ちたラジオ的構成をとっている、という

のだ。

例えば、富田勲がAB2本のテープを

並べて斜めに大きく切り、AとBをつな

いでしまう。最初にAの中にBの音が断

続的に薄く入り、次第にABがからみあ

いBへ移行する。深いクロスオーバーと

いうイメージであろうか。

阪田によれば、庄野作品にはラジオの

録音構成の応用が随所にみられるという

興味深い指摘であった。

かつて「中央公論」誌上で、吉田直哉、羽仁進の間で「日本の素顔」論争があった。羽仁がテーマ追求の一貫性のなさに言及したとき、吉田は「録音構成」の発想に準じたまでだと居直ったのであった。

久野さんのテレビ作品「ひとりっ子」がある。政府が放送の中味に介入して、オクラ入りした第1号となった。テレビ記者会は番組に賞を贈ることで反骨ぶりを示したりしたのだが。

あの「ひとりっ子」を一緒にみて、「久

野浩平の人と作品を語る会」を開いてもいいなと思ったり、同年輩の岡崎栄さんはガン2部作をつくって妙に元気がいい、仁左衛門は語りがうまかったななどと考えているうちに、松飾りを外す日も過ぎていった。

ゲリラ橋

大類 啓

ある地方局のトップがキー局のドンに「地方局は自立を考えた方がいいよ」とささやかれ、仰天したという。なにをたじろぐ。番組制作会社はとうにそうした仕打ちに遭っている。結果、当社は4年前に赤字転落。

そこで打った手は戦線拡大作戦。まずは映画の巡回上映会。山形は国際ドキュメンタリー映画祭とか藤沢周平ものの映画とかで映画界と自賛しているが、実は1県に映画館3館という映画過疎県なのだ。そこを突いて無館地域に独立系の映画を数年持ち込み、そこでこ当たった。09年は松竹の協力で「シネマ歌舞伎」2本を仕込み、これが連続大入り。次の手は婚活。腕に覚えのレギュラー番組と社員ダイレクター2人の常駐派遣をゲット。こんなんでやつと黒字回復。社員40人を派遣村に送らずに済んだ。地方局とキー局を結ぶのは橋1本。これは今や危険水位。当社は川に橋は多いほど安全、を学習した。さて、新年はどんなゲリラ橋をかけようか。(東北映音備CP)

初笑い忘れてぼやく端役かな

荻野 慶人

新政権100日と賑やかに論評された年末から不快感が募り、笑って迎春を慶

べないのは、肝腎の鳩山由紀夫という首相が危なっかしくてハラハラし通しの越年だったからだ。

野党時代「秘書の罪は政治家の責任、私なら議員バッジを外します！」と恰好よかったのが、政治資金の虚偽報告で元秘書が起訴され、母親からの総額12億数千円もの提供が露見すると、「私は何も知らなかった」と信じ難い弁明だけで、約6億円の贈与税を納めてケロッと出来る無神経には呆れる。

「母親からの援助。不正な献金で私腹を肥やしたのではないから、まあいいんじゃないの」と司直も世論もマスメディアも、鋭く追求する矛先が見えないのが不思議だ。我慢しきれなかった自公政権を倒してくれた民主党に少々甘いのではないかとさえ思う。

連立与党だから事を荒立てたくないのは解らぬでもないが、「約束を違える気なら、こちらにも重大な決意がある！」と凄んだ社民党も「民主党政権ではなく三党連立だ！」と傲岸な国民新党も、本件に関しては見て見ぬふりの感である。諸悪の根源「55年体制」壊滅の悲願達成には止むを得ない必要経費と寛容に見逃すのか。

僅か263日で城を明け渡した殿・細川護熙の二の舞は避けたいし、前政権の安倍、福田、麻生と続いた世襲宰相と同列に、脆弱の誹りに塗れさせたくない国民感情が働くのだろうか。

僕も当初は鳩山首相の白っぽい品格に期待した一人だ。昨秋、就任後初の国際舞台(国連気候変動首脳級会合)で「2020年までに温室効果ガスを1990年比で25%削減する」と生真面目な英語

で訴えるのをTVで観ると、日本人として嬉しくなった。

米政府が沖縄の米軍普天間基地を名護市へ移設する日米合意履行を迫るのに対して「沖縄県民を尊重したい」と県外国外論を仄めかすので、この人はひよっとすると追従一途の弱腰でなく、半世紀経つ日米軍事同盟の見直しを、本気でオバマ大統領に提言するのではないかと身を乗り出したものだ。

口惜しいが、期待はずれであった。ボヤキ漫才の人生幸朗が生きていれば「責任者出てこい！」と怒鳴るだろうし、ボヤキ監督の野村克也は「勇将はハングリーからしか育たん！」と口ではなく背中が語っている。

ドラマよりもきつと面白い劇場型政局は、一月中旬からの通常国会進行と共に加速しそうだが、首相や大統領のソックリさんやチョンマゲ結った国会議員の寸劇で笑い、大学の先生や有識タレントの余芸に唆されて参政気分浸っているだけではないのか!

僕たちOBを含め放送人の罪と罰にぞつと寒気の新春である。一念発起したいが、無責任な軽口は慎もう!

加藤 迪

昨年末、地球と人類の存亡という危機感から開かれたCOP15は無残な結末となり、大いなる既視感をもたらせた。

37年前、ストックホルムで取材した第1回国連人間環境会議の構図とあまりに似通っているのだ。

北国小国の主催、世界中が寄せた関心と共感、その高い理想が各国のエゴによって崩壊してゆく過程、その中で目立つ

日本のナイーブさ、そしてまたしても中国。

環境会議は、中国にとって国際政治でのほとんど初舞台だった。中国の演説は会議前半に予定されていたが、会議で繰り上げられる先進国と途上国の駆け引きを見て、突如最終日に変更する。演説の内容に世界は驚いた。先の演説では会議の趣旨に沿って用意されていたはずの公害防止や人口抑制への言及は全くなく、先進国への攻撃一色だった。日本の演説が国際会議では異例といえる謝罪と公害防止の誓いを表明したのと好対照であった。

この演説で中国は一躍途上国のヒーローとなった。しかし、これによって環境会議の理想は微塵に粉碎され、哀れな末路を辿ったのは周知の事実である。

そして今回のCOP15のテーマがエコからエゴへ変質した原動力も、今や世界一のCO2排出国となった中国であった。

環境問題の標語 Think globally, act locally は中国では act for local interest とでも読み替えられるのだろうか。

老人妄語

各務 孝

年末の朝日誌上で興味深い投書を読んだ。要は、12月10日付けの本紙で天声人語では「本土は自らの平和のために、戦後もずっと沖縄に戦争の準備であること」を強いてきたのではなかったか」とする一方、社説では「日米関係の基盤は安保条約であり、日本が基地を提供するのは不可欠の要件である」としていることへ

の疑問で、つまりは、「基地を提供するの

は当然だが、沖縄だけにその負担をかけた

情し、本音では我が身が大切」のいかにか

も朝日らしい論調に対する批判であった。

投資者の言う通り、これでは、普天間基

地の問題で迷走する鳩山内閣を論評する

資格は無いわけで、鳩山内閣は朝日に代

表されるマスコミ論調を地で行っている

に過ぎない。今年は安保条約締結50周年

に当たる。基地問題を抜本的に考えるま

たとない機会である。日米を基軸とした

軍事同盟の有効性を含めて、政治、経済、

文化全般に亘る日米のバランスシートを

検討する大型プロジェクトの紙面や番組

を待ち望む次第である。

している。

半世紀が過ぎて、アーカイブ展流行り

である。だがそこに展示されているのは

「排泄物」ではないのか？君は流されて

いないか？「お前はただの過去に過ぎな

い」と思われてはいないか？ただの過去

ならまだいい。未熟を隠すための粉飾を

加えてはいないだろうか。

こわいことである。

化が起りはじめていたらしい

テレビ第1世代の制作者たちが第一線

をしりぞき、カラーテレビが普及して衛

星中継やENG取材といった技術がすぎ

つぎに実現した。番組の視聴率が翌日午

前中にわかるようになったのもこの時期

である。

かつて、テレビの同時代性とは、「いい

番組・おもしろい番組を作れば、かなら

ず見てくれる人がいて、それは売れる」

というものだった。多少乱暴だが、19

80年代以降のテレビ企業とテレビ人の

考え方をひと言でいってしまえば、「売れ

る番組・当たる番組を作れ、さもないと

利益がでない」ということになるのだろ

うか。

21世紀も10年目をむかえて、メディア

界はかつてないきびしい時期を迎えてい

るといわれるが、テレビの同時代感覚と

今年には鶴見俊輔さんのロングインタビュー

をDVDに残したいと皆様のご協力を

呼びかけています。

コレクティブハウスかんかん森も今年

は7周年、記録DVD「かんかん森のは

なし」も好評です。

今年もよろしくお願いします。(テレビマ

ンユニオン)

9)年3月4日。昨年が沢田正二郎没80年にあたる。

私はこの新国劇と共に生きてきたような気がする。この歳になつてそれを痛感する。フジテレビと提携したのも一貫したその流れである。新国劇は今から23年前に70年の歴史の幕を閉じた。その渦の中に私の人生もあった。私は今、沢田正二郎の声なき「遺言」を書き残そうと調べに没頭している。そこには松井須磨子が立ちほだかり、師島村抱月にぶちあたる。「カチューシャの唄」と抱月、『国定忠治』と沢正、並みのプロデューサーではない。そこでとんでもないことに気づいた。2人とも「一代」限りを覚悟していたのでは？私はこの60年、大いなる錯覚の中にいたのか？正月早々頭が痺れた。*****

鈴木典之

百歳は古来稀なり
九十は奇とするに足らず
八十は大いに為すべし
七十は得ること多し(沙孟海)、とか
日残りて昏るるに未だ遠し、です。
年齢7掛け説でいけば傘寿は還暦前、働いて当然です。よろしくご教導ください。(＊松尾傘寿老宛て)

杉澤陽太郎

NHKの「100年インタビュー」、どの回も感動の連続で視聴しています。
特に、私にとっては、昔、テレビで話を聞いたことのある、山田洋次、立川談志、蛭川幸雄の回は、慄然として襟を正しました。

それらの人たちの、憑かれたように何かを追い求め苦しみ続けている姿が、今、

テレビの空間に鮮々と存在し、訥々と身内から絞り出すようなことばが、時間の流れの中に紡がれて行くことへの驚き。同じ人に聞いて私が果たせなかつたことを渡辺あゆみさんが見事に実現している。アナウンサーのインタビューもここまで来たかと嬉しかつたです。

最近、聞き手が、意識的にか、気づかずにか、主役になつてしまう番組が増えました。また出演者、聞き手とも流暢で、滞るところがありません。過去の面白いエピソードや業績を並べ立て、全てが予定調和で、肝心な今がありません。

渡辺さんで思い出しました。彼女の入社面接の時、私が聞き手でした。他の学生たちが、何を聞いても即座に予定調和の答えを返してきたのに、彼女だけは、「うーん」と一唸りしてから、考え考え答えていたことを、今の彼女とダブって思い浮かべています。

田澤 正稔

夢。
囲碁五段。ゴルフAクラス(ハンデ13以下)。趣味の世界でみる夢は努力次第で手が届かないでもない。
仕事からみでみる夢は、なんといつても視聴率向上。こころをひとつにして最強の放送局を志し、こちらはなんとしても叶えたい。

露木 茂

明けましておめでとうございます。60代最後の新春をむかえました。「アラコキ」です。

大学のゼミでは、番組制作の指導をしています。最近の学生はものごとがなかなか決められません。

企画会議や検討会、編集などあらゆる場面で、互いに気を遣いあうのか、仲違いをおそれるのか、結論が出せないのです。まるでどこかの内閣を見ているようです。
じつと我慢の毎日です。

今ザラ目前 搦餅詰咽の記

新村 もとを

「放送人の会」の本体である放送そのものに関連する活動には参加出来ずいわば余技・趣味の部分と言うべき「俳句会」にばかり入れ込んでおります。
個人的には 昨3月末を以つて39年間わつて来たテレビマンユニオンの「名誉メンバー」という名の無給在籍(税法上は失業)者となりました。
ということになると 何時かやろうと思つていたことが続々と顔を出し 意外に多忙な年となりました。
同人となつていた俳句結社「玉藻」への句会参加は 年間30回丁度を数え20年以上続けているランニングの方では9月にはベルリンマラソンを走り この大会は自身の34回目マラソンとなりました。そして これまた20年程続けているテニスでは 所属クラブの年末忘年トーナメントに組分けメンバーにも恵まれて優勝してしまいました。

この身勝手な多忙思い込みの好調の中で新年を迎え「古稀」までに 60日を切りました。と 昨11月のTBS演出部のOB会で 梅本彪夫先輩に「古稀Vはもう昔のこと 今では皆長生きになつてそんな所は疾うに過ぎちやつて今ザラVつて言うんだよ。」人生七十古来稀なり今やザラなり「つてね」と言われたのを

思い出しました。

よし どうせ「ザラ」なら この(思い込みの)好調をキープすべく いまひと踏ん張りすることとすると 雑煮の餅を喉に詰まらせ 10分程のた打ち回りコミックのような正月でした。

西川 章

読み手なら任せておけと歌かるた

阿舟

本年もどうぞよろしくお願い致します。

頭上漫々 脚下漫々

林 健嗣

新春くらいは、朗々と明るい話を北の地から送ってみたいと、机に向いさて相変わらず厳しい！北海道から放送人の会のみなさんへ、胸を張つてお届けできるものとは考え、拙宅の吹き抜きの窓を見あげると、そこには、きゅきゅつと縮まって、切れ味鋭い新春の青い空と雲がありました。「何もないけど 空だけは広くてきれいで、遠慮しないで好きだけ、撮影して帰っていいよ！ハハハ」と冗談を飛ばした、取材で出会った根室の酪農家の奥さんのことを思い出しました。あのきれいな北海道の空は、温暖化のせいでしょうか、そのご機嫌は、斜め度を年々増してはいるというものの、それでも、救われるような広さと色は、少しも変わりません。頭上漫々脚下漫々空と大地があれば、巡るものは巡る…。真理変わらぬ！と。北海道から「何もなけれど…のんびり青い空のお話」をさて頂き、年頭のご挨拶と致します。
さて、暗いようで、まだ明るい？放送界の空と大地は、なんとと言えば良いの

でしょう。下手な経済予測のような話より、ハハハと笑いながら、先行き明るい話で、終わりたいのですが、屁屈屈だけが頭に浮かび、空に笑われそう…。ならば、初夢よろしく強引に「漫々たる創造性こそ、放送の原点であること」を後輩たちに伝えていく為今年もお役に立てればと誓い、明日に向かって、テレビ漫々、ラジオ漫々とパロッてみてみようと思います。

そう言えば、まだやり残した撮影があるの思い出しました。あの根室の空を撮りきれではないような気がしてなりません。遠くのものを見せる仕事は奥が深い。なんとも春からシマラナイ話で：*****

堀川とんじろ

明けましておめでとうございます。世界の異変をとまかくとすれば、おさまで平穩に1年を過ごしました。

庭いじりにかまけてゴルフはほとんどしなくなり、「放送人の会」の句会に参加してまずい句を作り始めました。

苦も楽も 師走の雨に打たせけり

しかし残念ながら、誓子の名句、

土堤を外れ 枯野の犬となりゆけり

これが胸にびつたりときます。

『坂の上の雲』のこと

松前洋一

明けまして、お目出度うございます。昨年末から『坂の上の雲』の放送が始まりました。出来上がりといいい格調といいい、テレビ史上に冠たるノンフィクションドラマの誕生です。

司馬さんがこの小説を産経新聞に連載したのは、1968年から72年までで

した。従って、訛化にはざっと40年かかったことになりす。その間多くのテレビや映画、プロダクションの方々から映像化の希望が寄せられました。私は司馬さんの依頼でその殆どの局面に立ち会ってききました。司馬さんは、この作品の映像化には極めて慎重でした。無論、活字と映像の差異ということもあつたでしょう。その上、この小説は文体という、か細い糸のようなもので、かろうじて釣り上げている作品—というシンボリックな方方をされていたこともあり、司馬さんは亡くなりましたが、長い時とあまたの曲折を経て、大きくは『坂の上の雲』という小説の評価と定点が定まったというあたりが、このたびの映像化へのステップボードだったと私は思っています。放送までにはさらに6、7年を要しました。折から「政権交代」という暗示的ですからある2009年でした。NHKスタッフと出演者の方々の健康を祈りつつ、私は後続を期待しています。

松平 定知

女性初のNHKアナウンス室長だった山根基世さんを中心に結成したLLP「ことばの杜」は3回目の正月を迎えた。「日本の話し言葉を育てる」という理念の下に作られたこの組合は総勢7人の小さな組織である。「話し言葉教材作り」や「親子読み聞かせ教室」や「学校(指導者)巡り」など「ことば」を軸にした極めて地道な日々の社会貢献活動の中で、我々が大切にしているもの一つに「朗誦会」がある。去年までの公演回数は8回。東京だけでなく大阪や青森にも行ったし、上野の東京文化会館小ホールでは

「オペラの森」とのジョイントコンサートも年に1度、開いている。今年3月は「文語」に挑戦する。「朗読ブーム」という順風の中で、芸能人や民放アナウンサーたちの朗誦会やCD化が目立つ。みな力作揃い。私たちも頑張らねばならぬ。ことさら『朗誦用の声』を作ることなく、過度の感情移入は厳に慎んで、そして「ど」書いてあるか、なぜそうなのかを、よく観察・考察し、聴き手が作者の意図を理解できるように「読め」という杉澤陽太郎元室長の言を深く胸に刻んで今日もマイクの前に立つ。でも、終わるといつも「もつとまくなりたい」と思う。嗚呼、いつまでたつても「発展途上人」。

三宅 恭次

かつて所属していた会社の現役からの年賀状は「益々厳しくなる」「昔のおおらかな雰囲気はなくなってきた」といった類の添え書きのものばかり。

手元に中間決算書がある。営業、経常、最終のすべての段階で「損失」謂わば赤字の三冠王”恐らく開局以来のことである。しかし、事業概況は…で増収を

図ったが、及ばなかった。結語は環境は厳しいが総合力で増収を図り健全で安定的な経営基盤の確立に全力を尽くす、とある。さすがにキー局の視聴率の所為という「言い訳」は見当たらないが、それにしても危機感が薄い。地場先発局は借金も少なく、蓄えもそれなりにある為だろうか？

地上波民放はスタート以来、CM15秒を基本に代理店経由で営業活動を行い、売り上げの80%を「実入り」とする美味しいビジネスモデルで一貫して右肩上り

の成長をしてきた。ニューカマーを排除する規制に守られた最後の護送船団として、少なくとも数年前までは。しかし「外敵」は十数年前から地上波の土台をコツコツと掘り崩して来ていた。ようやく気付いて取った策は、自社制作強化など地域密着・デジタル時代に向けた新たなビジネスの構築等である。とは言え具体的に取られているのは人員削減、制作費のカットなどいささか矛盾する方向である。

私は経営者は従業員としっかり向き合い三方一両損ではないが「賃金制度」まで踏み込み、半世紀前の創業時の「熱」を取り戻す努力をすべきではないかと思う。下部構造は上部構造を規定するなど古臭いことを言うつもりはないが、放送人の会も営業の議論をすべきでは…。

(中国放送OB)

守分 寿男

饒舌で騒々しく、一方的に押しつけてくる番組が多く、インパクトを強くして、ある場合にはスキャンダラスな人目を捉える内容まで盛りこんで、これを見よ、と展開する流れが表現の主流となっている。そうした流れからは、真の意味での、創り手と受け手の交流は生まれにくい。瞬間、瞬間に消えていく。発信者と受容者の間に、真の意味での交流が生まれる為には、発信者の内容の底に、その内容を支える沈黙の重さと深さが必要で、その沈黙を共有するところから本当の意味の、交流が可能になる。受容者がそれぞれの立場から、その沈黙を読み解くとこ

ろから伝わってくるもの、それがコミュニケーションの核であろう。今のテレビの表現に欠けているのは、躁状態のリズムのなかで失われてしまったこの沈黙の重さと深さではないか。私は絶え間なく、騒々しく声高に流れるテレビを眺めて、そう思う。

阿武隈通信

第5回

秋山 豊寛

農業の役割について

山の中に暮らしていると、殆ど、一日中黙って作業することが多いのですが、時には、人が訪ねて来ます。

こうした人々のうちで農業に関心のある人には、日本の農業にかかわる基本法である「食料・農業・農村基本法」をどう思うのか、と聞いてみます。「基本法」を読みますと、これは一般的に理念を述べた法律ですから、日本の「官」が農業のあり方をどのように捉えているのかを知る事ができます。

「読んだことがないので……」と大変正直な答えが返ってくることもあります。こんな時には「農業の役割って何だと思ふ」という質問をします。「役割って、食料を供給することでしょ」という答えが殆んどです。

答えとして間違っていないのですが、不十分です。

日本の現在の農業「基本法」は、第二条で食料の安定供給をうたい、第三条で「多面的機能の発揮」そして第四条で「持続的発展」、第五条で農村振興を述べています。

ポイントは第二条です。農業の「多面的機能」とは、いかにも日本語として

八木 康夫

新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

35年ぶり、倉本聡さんがTBSのドラマを書かれます。ご期待ください。

ピンとこない言葉です。ピンとこないのは、外国話からの翻訳だからでしょう。英語のマルチファクションの直訳と推定できます。

二十世紀も押し詰まった一九九九年に制定されたこの新「農業基本法」は、それまでの「基本法」とは違い、農業の役割を、農産物の生産だけでなく、それ以外のものもあると認めたのです。

農産物以外のものとは、ナンゴヤ、という事になります。それがマルチファクション「多面的機能」です。具体的に言えば、先ず景観があります。牧場に草を食う牛などは「景観動物」というわけです。田圃にトンボが舞う風景もそうです。他にも水を張った田圃から浸み出した水が地下水脈をつくることもあります。共通していることは、いずれも、商品として流通するものではないこと。だからファンクション機能という表現が使われているわけです。

要するに二十一世紀の日本では、金にならないものを創り出すことも「農業の役割」として認められている、ということなのです。

「だから、どうなんだ」とおっしゃる方もおいでかもしれません。

そこで質問です。こうした「機能」を創り出しているのは誰なのか、ということ。農家です。農家は、生産した農

大和 定次

昨年12月初旬、中国語の達者な甥に連れられて上海に行ってきました。私は、昭和19年初夏まで上海にいて、日本人小學校に通いました。現在、開発が激しい上海ですが、その学校と、そして住居が奇跡的に残っていました。65年ぶりの再

産物を販売すれば収入となります。しかし、農家が手を加えることで存在する風景に対して、金を払う人はいません。農家がなくても風景はある、と言う人もいます。しかし、農家が手を入れない減反田、草芒々の畑は、景観としてどうでしょうか(奇妙なことに、日本政府は永年金を払って減反田を増やしてきたという事実もあります)。

視点を少しずらしてみます。日本で見られる赤トンボの九割以上が、実は田圃で生まれているという調査結果があるそうです。田圃では、コメと一緒にトンボやカエル、様々な昆虫も「生産」しています。

もちろん、ネオニチコチノイド系農薬も含めて、殺虫剤を大量に撒いている田圃では、赤トンボは生まれません。

ここ数年、「癒し」という言葉と出くわすことは少なくありません。うら若き美女との会話で癒されるオジさんもいるでしょうが、田圃風景と親しむことで癒されるオジさんもいるはず。私たちが「豊かな自然」といったときに思い浮かべる風景は、たとえば、鳥が鳴き、小川が流れ岸辺に樹が繁り、涼しい風が吹いて来るといった場所かもしれません。鳥

がいるのは、そこに食料・虫や草の実がたくさんあるからです。小川の水は、田圃と無関係ではないはず。樹が生え

会です。もう、すっかり舞い上がって、まだその余韻に酔いしれております。

山縣 昭彦

当地茨城の鹿島神宮例祭では、毎年恒例の棒打ち行事が行われる。女物の派手な衣装を纏った若者たちが円陣を作り、手

ているのは手入れをする人がいるからです。涼しい風は田圃の水面を渡ってきたからかもしれません。いずれも農家の存在、農家の仕事と無関係ではありません。何を言いたいのか、気になって来た方もおられるでしょう。実は、今年度の農業予算に計上されている「農家への戸別所得補償」には、こうした背景があることを、都会の人々にも知ってほしいと思います、くだくだ書いてしまいました。

恐らく、この予算について「パラマキ」といった「批判」をするエコノミストも出てくるでしょう。こうしたエコノミストと同じように、農業を農産物を生産する産業としか捉えないマスメディアの住人もいるでしょう。ただ、農業の果たしている役割についてマルチ・ファンクションという翻訳語が使われていることで明らかのように、欧米では「農家への戸別所得補償」は当たり前のことなのです。

農村景観を含めた「自然環境」の創出には、規模を拡大した少数の農家ではなく、沢山の小農が居ることの方が対応しやすいということも頭の端に入れておいて欲しいのです。そして何よりも私たちが後世に手渡したいと願っているのは、赤トンボや蛙や、小川のメダカに感応する「感性」なのではないかという気がするので。

にした6尺棒を天へ突き上げ、互いにカチャカチャと打ち合わせながら氣勢を揚げる。これは古代防人として徴兵された東国の若者たちが、九州へ出立した際の神事が由来とされている。フーム…？

諸記録によれば実は棒打ちとは、古来農民たちによる収穫祭行事だったと分かる。防人由来説は昭和初期、国民の戦意高揚を目的に案出された、全くの架空物語だったのだ。このように事実とは時として別の物語へと変容し、定着さえしてしまふ。

ところで今沖縄では、沖縄戦におけるまことしやかな皇軍美談が、恐るべき力と速さで流布され始めた。そこでは皇軍主導による住民の集団自決や、花の名を冠した女学生部隊の慰安婦の実態など、それぞれの生きた証人たちは暴力的に沈黙させられている。

今やどうやら新しい防人物語を作ろうとする連中が居るらしい。事実を物語りとはしっかりと区別したい。頼まれている9条の会の講演では、こんな話をしたいと考えている。

横澤 彪

最近やらなくなったこと。仕事、宴会、カラオケ、ゴルフ、SEX。

最近始めたこと。病院通い、散歩、昼寝、俳句、気功、時代小説の乱読、新聞の精読、家事手伝い全般。

暇人ですから、テレビはよく見ます。DVDに収録したのを見ると腹の立つことが多々あります。目が回るぐらい早く流れるスタッフ・ロール。こんなのは流さない方がスマート。雑壇芸人の名前

が紹介されないまま終わってしまう失礼千万な番組。いやはや。

テレビ業界もどんどん縮んでいる感じが昨今ですが、年金生活者としては、自分の暮らしを縮めていかなければならないと、今住んでいる家と土地の売却を検討しはじめました。

悪性リンパ腫という癌と共生して6年目になります。寿命の方はとくに縮んでいきます。

初夢や 女房にクラブで 殴られた

吉村 光夫

森繁久弥さんがなくなった。「知床旅情」は私の愛唱歌、一時代過ぎ去るの感を深くした。

私が入社した頃TBSは3Mで構成されていた。社長の足立正さんは王子製紙出身だったが、社員は毎日新聞、満州電報、ムーランルージュとMの関係者が多く、私みたいなNHK出身者は肩身が狭かった。開局の頃だったかな、浅草の「蟻の町」での取材で森繁に会ったのを思い出す。社員の満電出身者が手配したのかも。

大晦日の生番組には森繁も私も毎年出演し、会うのが楽しみだったが、この「除夜の鐘」番組も消えて久しい。

結婚して二児が授かりアナウンサー生活を終える頃、明仁皇太子と美智子妃御結婚の馬車の行進を二重橋でテレビ中継することになり張り切って現場へ。直後に馬車めがけて少年が小石を投げて逮捕されたのである。逮捕劇を実況出来なかったのは全く残念だった。

管理職に昇進し10年間はラジオ、テレビの送出業務でジミに暮らし、番組宣伝

部に移ってから春が来て、番組宣伝の仕事が面白く、自ら出演制作の「夕やけロンドンちゃん」が大当たり、つなぎの作業服でスタジオを巡り、13%の視聴率を上げ、役員にはなれなかったが専門職部長で定年退職。

余生は二人の孫の成長とテレビドラマ鑑賞、鉄道趣味。今年東北新幹線が320キロで走るので、元気な老妻に引かれて乗ってこようか。

名作の舞台裏 第25回

『アイシテル』海容』

2009年4月15日〜6月17日放送
日時・2009年12月19日(土)

午後1時半〜4時半

場所・横浜情文ホール

ゲスト・稲森いずみ(出演)板谷由夏(出演)

演)次屋尚(制作)吉野洋(演出)

司会 石橋冠

少年が少年を殺し、加害者と被害者の家族が向き合うドラマ物語である。

石橋 「海容」がテーマ。「許す」だけでなく、広い度量で認め合うという意味だ。

稲森 原作を読んで非常に面白かった。凄いやつメッセージを投げかけられ、皆さんと一緒にいろんなことを考えることができると思

いまして、かなり怖かった。どう演じるか分からず非常に怖かった。

板谷 原作を読んで涙が止まりませんでした。昨年出産して、5ヶ月のときに話

がきました。仕事の再スタートの覚悟が



できず、乳呑児を抱えてこの役をやれるか不安で悩みました。

次屋 物語に合った人をキヤスティングしたのですが、「簡単に

はできない」と

分かっていて人をお願いしたいと思

「できない」と悩んでいるところをみて

「じゃあお願いしよう」と決めました。

吉野 原作は上下2巻ですが、テレビは

1回で上巻の3分の2以上をやっています。

あと9本にいろんなものを付け加えました。

石橋 その時々々の俳優の感情でやっ

るのがわかった。俳優も演出も本気で

回、淡々とやっけて行くといんだね。み

んなよく泣いていた。俳優は疲れるね。

板谷 子ど

もが死んだ

ときの演技

では本当に

泣いて、「頭

が狂いそう

」と思っ

た。控室に入っても泣いていた。

吉野 アップ

撮れば泣いて

いるわけで、

どうやっ

てもしんど

い。みなさん

よくやっ

てくれました。山本太郎の「オレ

のせいかよ」「オレ会社クビかな」など身

近なセリフを入れて「非日常ではない」

と思わせることに成功しました。



第17回放送人句会

平成21年12月9日(水) 於：赤坂・麦屋

出席：伊藤視郎、荻野慶人、豊田まつり、新村もとを、橋本きよし、林備後、堀川とんこう、松尾馬笑、山県ぼん太、西川阿舟 不在投句：鶴橋康夫
兼題：師走、着ぶくれ、カメラマン

坪庭に着ぶくれ気味の猫集ふ 馬笑(◎視、慶)
着ぶくれてくっついて乗る初デート とんこう(◎慶)
着ぶくれし凍たれっ子はセピア色 慶人(◎ま、馬)
着ぶくれやものははつきり言ひたまへ まつり(◎も、き、ぼ)
愛しめと影長く揺れ師走くる 康夫(◎き、備)
カメラマン帽子の雪の崩れざる とんこう(◎備、視、慶、ま、も、馬、舟)
着ぶかれてらせん階段降りる夢 備後(◎と、視、も)
ほどほどの老いの歩みや着ぶくれて 康夫(◎馬、も、備、ぼ)
白き月取り残されて師走かな もとを(◎ぼ)
凧や脚立の上のカメラマン 視郎(◎舟、馬)
着ぶかれて優先席に沈みこむ 阿舟(視、ぼ)
師走かな口紅小さく一寸濃く まつり(視、き、ぼ)
カメラマンいまは火を焚くひとであり 備後(視、舟)
着ぶかれてゐるは監督ひとりなり 阿舟(視)
カメラマンたちろぎもせず毛皮着て もとを(慶、備)
捨てカッパ集めて描く年の暮 馬笑(慶)

対岸もやはり師走の隅田川

視郎(慶、ま、も、き、と、馬)

笑、森治美、西川阿舟

道玄坂雨に華やぐ師走の灯

ぼん太(慶)

不在投句：伊藤視郎、山県ぼん太

着ぶかれてゴールデン街夜更けたる

ぼん太(ま)

兼題：初稽古、煮凝、ツーショット

ひと日古いひと日息づく師走かな

康夫(ま、き、と)

【星野高士特選】

苦も楽も師走の雨に打たせけり

とんこう(ま、備、舟)

炊きたての飯に煮凝漁師宿 阿舟

浅草へ何かと通げて師走の日々

備後(ま)

酔うてゆくツーショットあり冬座敷 治美

僅少の無心を判じかね師走

まつり(も、備)

さばさばと負けて一献初稽古 視郎(備、と)

殉難のカメラ還らず二度の冬

まつり(も、と)

煮凝にうしろめたさの少しあり 備後(丈、と)

光陰は矢の如く過ぎ着ぶくれし

ぼん太(き)

煮こごりを崩さずにいる山の宿 とんこう(◎備)

極月や刻むいのちの総ざらひ

馬笑(き)

煮凝の目玉喰ひたし友の逝く 文博(康)

行き暮れて疑心暗鬼の師走かな

慶人(備、舟)

松過ぎて疲れを隠すツーショット 馬笑

着ぶかれて再発したる歯痛かな

もとを(と、舟)

【星野高士選】

着ぶかれて優先席に座りおる

視郎(と)

煮凝に崩れし君のふくれ面 治美

石土間に水こぼれぬて師走かな

きよし(と)

初稽古罷り出でたる太郎冠者 ぼん太(◎も)

ATMに行列長き師走かな

阿舟(馬)

日向ぼこ影ぞ我が身とツーショット 治美(き、と)

訳もなく猫背で忙ぐ師走かな

もとを(馬)

海に入ること始まる初稽古 備後(馬、舟)

まんじりとせぬ夜の風も師走かな

きよし(ぼ)

初春や何故に貴奴らツーショット ぼん太(慶)

着ぶかれて釘ひとつを失へり

備後(ぼ)

枯木立女去り行くツウショット まつり

極月が庭先に来て待っている

とんこう(舟)

煮凝りに震へ手添ゆる傘寿哉 馬笑(◎慶、康、ま、丈)

第18回放送人句会

平成22年1月13日(水) 於：赤坂・麦屋

選者：星野高士(昭和27年生。10代から祖母星野立子に師事。鎌倉虚子立子記念館館長。「玉藻」副主宰・編集長)
出席：荻野慶人、鶴橋康夫、豊田まつり、中島丈博、新村もとを、橋本きよし、林備後、堀川とんこう、松尾馬

宵戎何かわけありツーショット 慶人

煮凝を突つついて居る妻の留守 ぼん太(康、舟)

飲んで寝て煮凝食うて又眠る ぼん太

ツーショットスリーショットになる今年 備後

煮凝の箸を逃れて揺れてをり もとを(き、舟)

煮凝に朱色を添えて箸枕 きよし(も、備、治)

知床かイムジン河か初稽古 慶人 (備)

煮こごりの味に譬えるドラマかな 馬笑

煮凝や潮騒窓に近くして きよし (も)

女流棋士嗜虐趣味なり初稽古 視郎 (ま、備)

その方に御目文字したく初稽古 まつり (と)

ツーショットきみ黒枠に往にし春 丈博

煮凝や扁桃腺の疼く夜 備後

初稽古鼻赤くして師範来る もとを(◎と、慶、丈、治)

煮凝や母の包丁錆少し きよし

身ひとつの孤独飛び出す初稽古 康夫 (◎ま)

【会員互選】

老顔に残る童顔初稽古 康夫 (慶)

遠つ国のひとも黒帯初稽古 備後 (慶、も)

コラーゲンと聞き煮凝に箸のばす 阿舟 (ま)

煮凝りや男料理のあとの鍋 視郎 (ま)

ツーショット虎の猫めく小春かな 康夫 (丈)

寒夕焼背に逆光のツーショット 阿舟 (も)

煮凝がかしぐ炬燵の温さかな とんこう (き)

煮凝や人の凝り性箸の先 康夫 (◎き)

松明けの片撮りであげ2ショット まつり (馬)

初げいこ少女の筆の新しき とんこう (馬)

初稽古しつけ糸解く母の衣の 治美 (馬)

禁断のツーショット撮る冬の旅 とんこう (治)

寒落暉口数少なツーショット もとを (治、舟)

雪下駄の駒子寄り添うツーショット とんこう (◎舟)

【選者 吟】

初稽古帰りに寄りし浅草寺 高士

煮凝の箸に気合ひを入れる夜 〃

煮凝や無口と無口向き合へる 〃 (◎丈、き)

初稽古いつもの路地と思へども 〃 (◎馬、康)

煮凝や雨音遠き隠れ宿 〃 (◎康、◎治)

選者名略：視||視郎、慶||慶人、ま||まつり、も||もとを、

き||きよし、備||備後、と||とんこう、馬||馬笑、ぼ||

ぼん太、舟||阿舟、康||康夫、丈||丈博、治||治美

次回放送人句会

◇ 三月十日(水) 十八時半頃から

◇ 於：赤坂・麦屋

◇ 兼題：春雷、蜩、本読み

◇ 特別選者：星野高士

西村与志木氏を囲んで

(「坂の上の雲」統括プロデューサー)

昨12月24日に東京ウイメンズプラザで「囲む会」番外編としてNHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」(原作・司馬遼太郎、脚本・野沢尚他)の統括プロデューサー西村与志木氏に、スタート直前の話を聞く会を持った。

大河、スペシャル、どちらとも当初は決まっていなかったが、原作のスケールの大きさから、短いものでは司馬の意図したものは表現し切れないので長尺を前提とし

結果90分13本、足かけ3年、3部構成と決まった。当時

海老澤勝二会長で、完成脚本を見た上で完全GOとする、

という。大河の場合脚本が3分の1ぐらいのところでもク

ランクインし、途中で脚本が間に合わなくなり、脚本家

に助っ人まで付けて大騒ぎになることがよくあったから。

脚本の野沢尚の情熱には凄いいものがああり、第1稿15本を

仕上げた。直接経費予算250億円の線になったが、映

画などと違いNHKの場合、人件費、スタジオ施設費な

どを入れずにまず試算する。それを縮減させた。10稿ま

での腹づもりで脚本家の対馬沖ロケハンも行われた。ス

タッフと福岡で別れ、3日後に急逝した。しかし、勇を

鼓し、2007年11月にクランクインし、撮影に2年近

くかけた。秋山真之の澄みきった清潔感が出る阿部寛

に、企画を立ち上げた2003年に頼んである。34歳ぐ

らいで声が掛かり、40歳の今やっているのだが、阿部は

それを待ち切った。渡辺謙のナレーションは、司馬自身

の肉声を感じさせるものになった。司馬の文に「余談で

あるが」の項がよくあり、その映像化に苦心した。歴史

を語る。司馬節を謙はよく出した。音楽は久石譲。

苦しんだのは明治期を雰囲気させるロケ地探し、意外

に残っていないかった。明治の日本を求めまわった。明治

維新以後に造られたものが次々に潰され失われていた。

物語の原点に松山が置かれたが、松山城と道後温泉にや

つと当時の面影があり、あとはみな戦争でやられていた。

その再現に苦心した。映像を映しながら、西村氏の話

は佳境に入った。上海のオープンセットなど海外のほか

国内では22の都道府県を歩いた。この日出席した参加者

もプロ勢ぞろいの感があり、緊迫と歓談の交錯に満ちた

2時間半だった。

(記・石井清司)

追悼 久野浩平さん（享年80）

構成 松尾羊一

「放送人の証言」の保存テープ（5年11月30日収録 聞き手 大山勝美）の「久野浩平」編を見ている……。

以前、久野さんが懇意にしている表参道裏のワインバーで私はたずねた。

「証言」の連載でそろそろ久野さん本人を記す出番では？」と。独自の分類でテレビ現場の史的共通項を模索する手法で読ませる会報の連載について私は「くくりは多分「ローカル局出演者たち」でしょうね」と水をむけると、照れ臭さそうに（あの人特有の柔和な微笑をうかべ）「いずれそのうちに」。いずれそのうちを待たないで同志の人は逝ってしまった！



旧制福岡高校から九大文学部佛文科卒。昭和28年、草創期のラジオ九州（現RKB毎日）に就職。「……といっても学生時代に演劇や映画サークルにいたわけでもない。スブの素人です。まず営業トライク課に。仕事はラインネットない当時、キー局の完パケテープを板付（空港）で受け取る業務でした」。「民放はまだラジオ時代。テレビ

は暗中模索下で、ラジオはテープ編集と効果音で時空間を自在に描けるのが魅力でした」。といっても「伊馬春部、北条秀司、菊田一夫などの重鎮が仕切る《中央》に対抗するには実験的作品しかない」。そんな気運から異質なドラマ群がラジオ九州から生まれた。折りしも九大時代の友人水尾比呂志（詩人美術史家）や同郷の川崎洋がいた。彼らは詩誌「権」に拠り、同人に大岡信、茨木のり子など新進詩人を擁し、詩劇としてのラジオドラマに興味をもつ。彼らのサロンの周辺に武満徹、林光、一柳慧、佐藤慶次郎などの前衛作曲家、一方に安部公房や無名の寺山修司がいた。局内にも吉村忠夫、大坪都築という芸術派の先輩演出家が活躍している（大坪は後に文化放送に移籍して安部公房の「棒になった男」で芸術祭大賞を獲得する）。加えて「ラジオ九州社長が金子秀三で、毎日新聞（西部本社）編集局長時代、戦争責任から終戦翌日の朝刊を白紙のまま出したという気骨の持ち主で制作現場に理解があった」という。草創期民放には金子のほか、今道潤三（TBS）原清（ABC）小嶋源作（CBC）永松徹（MBS）村上七郎（CX）といった一家言ある文人型経営者を輩出、彼らはいい意味で現場に口を出す、良き時代だった。

「既存の大劇団や脚本家に無縁なローカル局はハンデをチャンスに、自由な実験が可能だった」。「鍛冶橋脇に東京支社があり、武敬子がいた。そこを拠点に詩人たちと連絡をとり、とにかく脚本を送れ」と。「ラジオホール」（サス梓）に寺山修司がしきりに脚本を送ってくる。その中から選んで作ったドラマ『中村一郎』が民放祭最優秀賞を獲得しました」。ビルの屋上から投身自殺を図ったサラリーマンがなぜか空を歩いている。町中は大騒ぎでマスコミの寵児になった彼はやがて飛べなくなつた自分に気づく、といったどこかノーマン・コウインに近いアメリカ諷刺劇風なタッチの不思議な質感をもつたドラマだったと私は記憶している。この作品や川崎洋の脚本で久野さんは民放祭賞や芸術祭賞を次々に獲得。やがてテレビ時代に入り「ドラマのTBS」を横目に金子社長は「とにかく賞を取れ」と、現場にハッパをかけた。1962年「東芝日曜劇場」梓での芸術祭参加ドラマ「ひとりっ子」（家城巳代志、寺田信義脚本）が突如放送中止になった。貧しさゆえ防衛大学を志望した若者をめぐる母と子の葛藤（望月優子、山本圭）を描いたホームドラマだが、これが反戦ドラマだと右翼の糾弾、番組審議会の批判、そして民放労連の「一人っ子」を放送させよう運動に発展、一ドラマが鋭く政治化した。いわゆる「ひとりっ子問題」である。しかし久野さんは「上映運動」にコミットすることをあえて避けた。「僕にはまだ表現が残されている。いつかまた、もう一つの『ひとりっ子』を作る方向を見定めていた」と。「事件」は拡大し、編成担当の秦豊（後にキャスターを経て国会議員）に続いて久野さんも退職する。TBS移籍の話が内部派閥のあおりで壊れ、ドラマ強化のNE T（現テレビ朝日）へ入社。おもに「ポロラ名作劇場」を河野宏らと共に作る。ポロラ梓は「氷点」「ながい坂」など、橋本潔（会員）の見事なセット美術もあいまって傑作を連打した。「しかしテレビ朝に骨を埋める気はなかつ

た。RKB毎日への思いはあったが、ドラマはもっと自由な環境で作るべきではないか」と製作会社（PDS）設立に参加する。その間久野さんの周辺には秋元松代、安部公房、田村孟、砂田量司、松原敏春、作家檀一雄などが去来する。話題は壇一雄の「リッ子その愛」や「生きて行く私」（84年ATP最優秀賞）など愛の世界を心理主義的なタッチで紡いだ演出作品群に及ぶ。中でも太平洋戦争直前の暗い時代を背景に劇作家志望の青年と吉原の娼婦の悲恋（石坂浩二、若尾文子）を描いた植草圭之助の私小説（脚本 八木柀一郎）をドラマ化した「冬の花 悠子」（74年民放祭最優秀賞）など久野ドラマが開花、話は「透明感をたたえた演出家」（大山勝美）の内実にさらに迫っていく。「金子社長や豊さん、TBS転籍を薦めてくれた大森直道さんが心に残っています」と述べたあとも静かに、時に激しく談じ、ドラマの退廃を批判した久野さんは、最後に胸のうちを語った。

「作られたものは誰かに見られている。作る側でなく見る側にこだわって僕は見た目をとってきた。最後まで素人の立場だった僕をささえていたのは青臭い言い方ですが、デカルトのいう認識する主体なんです。だから結局、僕にとって『ひとりっ子』はある意味で十字架でした。今のテレビはどうしようもないが、しかし、何だ若い連中はとも思っても昔の若い僕たちとどこかでかつながってる。それを信じたい、今はそういう思いです」

（同時代の放送人久野さん、ご苦労様でした。ゆっくりお休みください）

【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 有馬哲夫 石井彰 【い】石井清司 石井ふく子 石高健次 石橋冠 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 一色伸夫 伊藤雅浩 井上良介 岩澤敏 【う】上田千秋 碓井広義 歌田勝彦 宇野昭 【え】江口展之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太田敬雄 大西康司 大西文一郎 大原れいこ 大山勝美 大類啓 大脇明 岡弘道 岡崎栄 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暲 荻野慶人 小田久榮門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 加藤滋紀 加藤静夫 加藤迪 金沢敏子 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫 上安平冽子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 川竹和夫 河邑厚德 河村正一 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木村栄文 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 隈部紀生 【こ】小池勝次郎 河野尚行 児玉清 児玉孝光 児玉久男 後藤和晃 小南武朗 近藤晋 今野勉 【さ】斎藤伸久 斎藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤秀山 佐藤利明 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 嶋田親一 清水満 下重暲子 城菊子 【す】菅野高至 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木昭典 鈴木克明 鈴木典之 鈴木道明 須磨章 【せ】せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 高戸晨一 高橋一郎 高橋啓 滝大作 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中直人 田原英二 田原茂行 【ち】千葉勉 【つ】露木茂 鶴橋康夫 【と】土居原作郎 堂本暲子 戸田佳太 外崎宏司 富永卓二 豊田由紀子 土門正夫 【な】中崎清栄 中澤忠正 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村美美子 中山和記 難波秀哉 【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 二宮文彦 丹羽美之 【の】野崎茂 信井文夫 【は】萩野靖乃 橋本潔 林健嗣 林裕史 原由美子 原田庸之助 【ひ】久野浩平 備前島文夫 【ふ】深町幸男 藤井潔 藤井チズ子 藤田晋也 藤久ミネ 【ほ】星田良子 堀川とんこう 【ま】前川英樹 松井泰弘 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本明 松本修 松本国昭 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 三村景一 三村千鶴 宮川鏡一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】守分寿男 諸橋毅一 【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 大和定次 山根基世 【よ】横沢彪 横山英治 吉澤保 吉永春子 吉村直樹 吉村光夫 【わ】和田智允 渡辺敏史

☆ 会報に載せたい小論文、感想、コラムなどを編集委まで連絡ください。

☆ 新会員に推薦したい後輩を事務局までご連絡ください。

◆ 新刊紹介

「全国テレビドキュメンタリー09年」

年鑑責任編集 田原茂行 鈴木典之

(大空社刊 6000円)

07年からたち上げたユニークな年鑑の09年度版がこの度上梓された。

かつて菅江真澄や鈴木牧之が足と筆と絵で、近年では南方熊楠や写真も駆使して宮本常一らが全国行脚しては綴った日本民俗史の原点を残す。映像によって記録する今日のテレビドキュメンタリーが果たす役割もそこにある。

まず「テレビドキュメンタリー08年

の概観」でこの年放送された番組群を精査、俯瞰する文脈でその傾向を分析する。中央、地方の主な作品、各賞受賞作品の紹介一覧があって、庄巻は地域発の番組の精細な論評、さらにナレーションに取材写真を挿入した構成台本が並ぶ章である。録画機能による時間差視聴が可能な時代ではあるが、映画のようにブッキング・システムで見られる機会をもたない放送界にあって網羅的に全国の番組に接し、再鑑賞する手立てとなる本書の役割は大きい。

ドキュメンタリー制作者や編成関係

者にとっては番組の傾向を知る上で、また企画のヒントを得るための現場必携の書として放送局資料の一端として備えてほしい。一方、メディア関連の講座をもつ大学、図書館も常備したい書である。本書を参考にして「放送ライブラリー」(横浜日本大通り)で保存・公開の番組を利用する手立てとしても有効であろう。特に理念過剰気味な学生たちは是非とも本書を手にとって描写の裏の世界をくみ取って欲しい。

編集後記

隠居の独り言・・・ま、鳩山お坊ちゃ

まの一件は分かるわな。ママの巨大タ

イヤ会社嫁入り持参金を兄弟山分け。

それがどうした、悪いか！◆問題なのは「悪代官小沢」の虚偽記載↓政治資金

規制法違反をめぐる大新聞、テレビな

どの一連の報道だ◆果たして4億円の

ゲンナマ袋詰めにして手で持てるか、

いや持てるよとスタジオで実験すれば、

小沢応援団「日刊ゲンダイ」対民主憎し

の「夕刊フジ」。専ら「検察関係者」の

リーク情報に群がる「記者クラブ」対列

外フリージャーナリストの内ゲバ◆テ

レビは小沢事務所がサ入れ中継待ちで

「のりピー」的なノリで逮捕場面で継取

材要員の手配を図るデスク◆正義の味

方検察陣は「若し私論を以て公論を害

せば、此以後、天下の法は立つべからず

と、荻生徂来以来の法理論を盾にスク

ラムを組むわな◆三権分立の民主国家

像とは立法、行政、司法が権益をそれぞ

れ60度の分け前をもつ「正三角形の論

理」による仲良しゴッコではない。今や

立法、行政、司法の任免権を独占する連

立政権に危うし！国家規範と危機感を持

ちち焦る検察陣◆法治国家とは三権分

立ではない。司法が90度を独占し、以下

立法府、行政府はそれぞれ45度の「直角

二等辺三角形の論理」にしたい◆いや、

それこそ小沢の肉弾戦の野望がひそん

でる。司法権もにぎる恐怖の「90度政治」

争奪の権力闘争が水面下で展開して

る。

とわしゃ見ているのだが、さて・・・(M)